

【平成30年度矢口東小学校授業改善推進プラン】

生活科における平成29年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・学年や学級、グループ活動や地域の方と触れ合う活動など、身近な人々と交流する場面で、児童は相手意識をもち、自分なりの工夫をして活動することができた。また、学校探検や校外学習を1・2年生合同で行い、交流を通してお互いに学びを深めることができた。しかし、相手意識をもって行動することのよさに気づき、それを日常の学校生活の中に役立てるまでには至っていない。
- ・体験や活動を通して自分なりの気づきをすることはできているが、表現の仕方に戸惑う様子が見られる。他教科とも連携させ、思考と表現の一体化を目指す指導を行う。
- ・第一学年では、学校生活になかなか適応できずにいる様子が見られた。学校生活への適応を計画的に進めるためにスタートカリキュラムに沿って、幼児教育と小学校教育と具体的な連携を図り、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせていくことが課題である。

生活科における観点別の分析

	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気づき
観点別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物の生長のような自然現象に関心をもち、意欲と愛着をもって活動しようとしている。 ・相手に喜んでもらえるよう計画を立てたり、友達と一緒に楽しめる遊びを考えたりしようとしている。 ・<u>小学校生活への適応を図るために計画的・組織的に学校生活を送らせていく必要がある。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達特性上、活動を通して考えたことや感じたことを表現するのが困難だったり、手段が限定的になったりする児童が多い。 ・活動や体験について考える際、活動そのものの楽しんでる様子は見られるが、それを表現する方法が十分に備わっているとは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や校外の人とのかかわりを振り返る活動を通して、身近な人々の思いや願いを想像し、自分にできることを考えることができている。 ・諸活動を通して、学校・地域の自然や人とのかかわり、その場所の良いところに気付くことができている。

授業改善のポイント

- 1 具体的な活動や体験を通して身近な人々、社会や自然とのかかわりに関心をもたせる。
 - 地域の人々と交流する活動や地域に出かける活動を2年間にわたり継続的に取り入れる。また、人と触れ合うことや地域社会のよさ、自然の不思議さや面白さなどを実感できるような体験的活動を取り入れ、日常的に人や社会、自然に目を向けられるようにする。
- 2 表現活動を充実させ、その言語化を図る。
 - 活動や体験をその場限りで終わらせるのではなく、小学校低学年の発達特性を踏まえ、様々な表現方法を十分に活用した指導・支援を行う。さらにそれを適切な言語表現につなげるために、他教科と連携した指導を充実させる。
- 3 スタートカリキュラムに沿った小学校生活への適応を図る
 - スタートカリキュラムを策定し、幼児教育と小学校教育と具体的な連携を図り、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせていく。

生活科の授業改善策

○身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもたせるために

- ・近隣の施設や幼稚園・保育園など地域との交流を見通した指導計画を立てる。同学年の個別支援学級や他の学年・学級との連携を一層充実させる。
- ・活動を振り返ることで、児童が人と思いを伝え合う喜びや地域社会の仕組み、自然の不思議さや面白さなどを実感できるようにする。
- ・学習活動が一度きりで終わることがないように、繰り返し学習ができるような同じ対象や場所を選ぶ。

○表現活動を充実させ、その言語化を図るために

- ・活動の過程で、様々な方法で表現する場を設定し、気付いたことや感じたことを交流できるようにする。
- ・児童が主体的に活動できる内容を重視し、思考と表現が一体化する学習になるようにする。また、表現方法を提示し、多様な表現方法を活用できるようにする。
- ・生活科の学習経験を、他教科の学習でも学習教材として活用し、言語による表現が広がるようにする。

○学校生活への適応を計画的に図るために

- ・スタートカリキュラムに沿って、幼児教育と小学校教育と具体的な連携を図り、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせていく。